

錦上添花

錦ヶ丘中学校
学校便り
11月22日発行 NO.25
文責 出崎 友英

ひとつの言葉

「心と心をつなぐ言葉」と題された、人吉市の中学生山本穂香さんが書いた作文があります。その中から一部を紹介します。そして、私たちが日頃使っている「言葉」について考えてみましょう。

「心と心をつなぐ言葉」 山本 穂香

みなさんは、普段どんな言葉を使っているか考えたことがありますか。

言葉には、人の心を傷つける力があります。

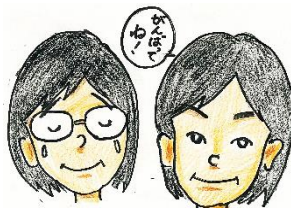
そしてそれは目には見えません。

「うざい」「クソ」「きもい」などという言葉は、まさに言葉の暴力です。なにげなく言っているつもりでも、相手の心をすごく傷つけていたということがよくあります。

言われた側はその言葉が心の中に傷として残ってしまうけど、言った人は相手を傷つけてしまったことに気づかず、いつの間にか言ったことさえも忘れてしまいます。

(中 略)

私は今までに何度か入院しなければなりません。そのとき、いつも「頑張ってるね」と友達がはげましてくれたことを覚えています。病院は学校から遠かったけれど、その言葉が入院生活の支えになりました。➤



温かい言葉は、温かい心から出てくるものです。今、私たちに一番必要なものは温かい心だと思います。そして、私たちが実行すべきことは言葉の一言一言を相手の立場で考えて使うということです。一人一人がそうすることによって、心と心をつなぐ会話が成り立つと思います。

相手のことをしっかり考えて言葉を使うことによって、一人一人の人権が守られます。

温かい心がふれあってみんなが笑顔で過ごせる未来になればいいと思います。

(平成19年度中学生人権作文コンテスト作品より一部抜粋)

北原白秋の「ひとつの言葉」という詩を紹介します。

ひとつの言葉

北原白秋

ひとつの言葉で	けんかして
ひとつの言葉で	なかなか
ひとつの言葉で	頭が下がり
ひとつの言葉で	心が痛む
ひとつの言葉で	楽しく笑い
ひとつの言葉で	泣かされる
ひとつの言葉は	それぞれに
ひとつの心を	持っている
きれいな言葉は	きれいな心
やさしい言葉は	やさしい心
ひとつの言葉を	大切に
ひとつの言葉を	美しく

学校保健委員会がありました。

11月20日(水)、「学校保健委員会」がありました。

「心身の健康についての課題と今後の取組」というテーマで、保健・体育・給食の各委員会からこれまでの取組の成果と課題について報告がありました。会の中ではSNSの使い方等について意見交換をしました。学校医や学校歯科医の先生方、東区役所の保健師さん、そして保護者代表の方から、それぞれご感想や助言をいただきました。ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。



◆お知らせ・お願いです。

○11月20日(水)、「グリーントime」を行いました。緑化委員会が中心になって育ててきた花の苗を、各学級の花壇に植えました。今回植えた花の苗が、春にきれいな花を咲かせることがとても楽しみです。緑化委員会の皆さん、ありがとうございました。



○今週は気温が低い日が続きました。季節が一気に進んだようです。急な気候の変化で、体調を崩すことが心配されます。その日の気候に注意して、服装、食事や休息、睡眠などに気を配り、体調管理を心がけましょう。インフルエンザの流行も懸念されます。体調が思わしくない時は、早めに病院を受診するなど、各家庭でもご配慮をよろしくお願いします。

夢への第一歩。それは「やればできる」と、自分を信じることだ。 「先生のコレクション」より